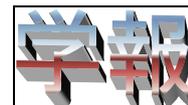


# 公立大学法人 北九州市立大学



## 第5号

(季刊)

I	平成 18 年度入学式 学長式辞 北九州市立大学 学長 矢田 俊文	1~2
II	平成 18 年度入学式 理事長挨拶 北九州市立大学 理事長 阿南 惟正	3~4
III	平成 18 年度新体制の紹介	5
IV	公立大学法人北九州市立大学 平成 18 年度計画	6~8
V	北九州市立大学中期計画 平成 17 年度の主な取組成果	9
VI	役員会、経営審議会及び教育研究審議会の開催状況	10~11
VII	トピックス	12~13

平成18年4月7日（金）、北九州市立大学体育館兼講堂（北方キャンパス）において入学式が開かれました。

法人として2年目を迎え、その入学式において新しい門出を迎えた新入生に向け、祝福と励ましの言葉として語られた、学長の式辞、理事長の挨拶について掲載します。

## I 平成18年度入学式 学長式辞

北九州市立大学学長 矢田 俊文



学長 矢田 俊文

本日ここに平成18年度北九州市立大学入学式を挙げるにあたり、末吉興一北九州市長、中島慎一北九州市議会議長ならびに市議会議員の方々、土谷清後援会長、山下建治同窓会長をはじめ、多数のご来賓に御臨席いただき、教職員一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

本日晴れて入学した学生は、外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部の5つの学部にて1,495名、社会システム研究科、国際環境工学研究科など2つの博士課程、5つの修士課程に入学した大学院生160名、そのうち外国人留学生81名です。

新入生の皆さん入学おめでとうございます。また、新入生をここまで育ててこられたご家族の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

皆さんがこれから学ぶ北九州市立大学は、1946年7月小倉外事専門学校として創立された後、戦後の学制改革で50年に小倉市の北九州外国語大学に昇格しました。53年に北九州大学と改称し、今年で創立以来60年を迎える伝統ある大学です。その後、4半世紀を経た73年までに「北方キャンパス」に文系4学部が整い、本学の基礎が固まりました。さらに、次の4半世紀には、5つの研究科を開設し、大学院の修士課程教育の充実を進めてきました。

21世紀に入ると、本学は第3の変革期を迎えました。

2001年「ひびきのキャンパス」に、国際環境工学部を開設しました。これによって本学は5学部からなる総合大学となり、大学名も北九州市立大学と改称しました。2002年には大学院社会システム研究科、2003年には国際環境工学研究科と2つの博士課程を新設して研究者育成にのりだしました。本学は、県立や市立など「公立大学」のなかでも全国の有力公立大学の一つとなっています。

さらに、本学は、昨年4月に法人化し、「公立大学法人 北九州市立大学」として再出発しました。今までのように、行政主導ではなく、教授会調整型でもなく、授業料負担に全面的に依存した私学経営でもない、理事長・学長のリーダーシップのもと、全学の一体的経営を重視した独自の法人経営を模索しています。

これによって、北九州市という行政機関の規則に縛られることなく、教育・研究の必要にあわせた予算や事務の執行ができました。また、教授会間の調整に時間がかかり、重要事項が決められないといった弊害もなくなりました。予算や組織、教員人事をはじめ重要事項は、理事長・学長主導の経営審議会や教育研究審議会ですばやく決定・実行するようになりました。

さらに、学内外で周到に練り上げられた「中期計画」に基づき、教育・研究・社会貢献・経営の4つの分野で本格的な改革に着手しました。1年間で6年計画の4分の1から3分の1まで実行しました。

最も重視している教育分野では、学部を越えて大学全体の責任で行われる、入学試験、教養教育、学生相談、就職支援の強化にのりだしました。

今、全国的に強化を求められる教養教育については、責任を持ってカリキュラムをつくり、実行していくため「基盤教育センター」を設立し、今後20名近くの教員が学部から移動し、抜本的に改革を開始します。また、社会に旅立つ皆さんを支援するため、キャリアセンターを設立し、キャリア教育や就職支援を強化します。さらに、教育方法の改善、成績評価の標準化、教員個人の評価制度の導入など、教育現場の改革にも着手しました。本年は、学部・学科の厚い壁を低くし、他学部・他学科の講義受講も可能にすることを含めた組織やカリキュラムの見直しを実行します。

「ひびきのキャンパス」は、本学だけでなく、九州工業大学、早稲田大学など複数の学術機関が集積するわが国でも珍しいキャンパスです。この優位性を生かして、3大学の大学院研究科による単位互換制度も昨年より開始しました。さらに、九州工業大学、九州歯科大学、産業医科大学と本学で学長会議を設置し、地元4大学の教育連携を開始しました。「北方キャンパス」でも、いままでの産業社会研究所を改組して「都市政策研究所」とし、自治体や経済界、NPOなどとの共同研究を一層強めます。さらに、来年から「ビジネススクール」を開設し、社会人を対象にした専門職教育の充実を図ります。

本学は、毎年多くの留学生を迎えております。留学生にとって、日本での勉学が基本ですが、生活のなかで日本の文化を理解し、また母国の文化を日本に知らせるといった大きな役割を持っています。本学では、フォーラム「こくら南」や「ひびきの」の皆さんが在学中に「日本のお母さん」役を引き受ける活動を15年にわたって積み重ねています。先日、卒業生を送る会に出席し、お母さんたちと交流する留学生の楽しそうな笑顔に接し、感動しました。本学は、「日本一留学生に親切な大学」です。留学生の皆さん、どうぞ安心してください。

新入生のみなさん、これからの4年間は、長い人生の道筋を決める大切な時間です。高校までは、受験教育という枠にはめられ、大学を出ると会社など組織の枠にはめられます。大学の4年間は、卒業に必要な単位の取得以外の枠はほとんどありません。服装はもちろん、時間の使い方も、考え方や行動も社会的規範に反しない限り自由です。しかし、受験競争から解放され、自由を満喫してダラダラ時間を過ごすと、「あっ」と言う間に、4年間で過ぎてしまいます。

今、市場主義が闊歩するなかで、あらゆる分野で厳しい競争が行われ、企業の倒産や、リストラも珍しくなくなりました。生きる方向も決まらず、働かないNEETと呼ばれる若者も急増しています。組織も個人も方向を見失いがちになっています。こうした時代にあって、どのように生きるべきかを準備するのが、学生時代の大きな課題です。模範解答はありません。皆さんの責任で解答を見出すしかありません。そのため、大学は多くの機会を提供します。専門知識を通じて自分を磨くことができます。また、専門以外の知識もできるだけ広く吸収し、自らの思想や価値観をつくることも大切です。スポーツや文化サークル、ボランティアやアルバイトなどを通じて多くの人々に接すること、外国に留学し、異文化を体験すること、これらが若い皆さんの人間形成において血となり肉となります。何事にも積極的に挑戦してください。

今ベストセラーとなっている「国家の品格」で、藤原正彦氏は、現代日本人の品格の喪失に重大な警告を發しています。確かに、世の中に急に躍り出た次世代を担うことが期待されている人たちの中で、品性を欠いた行為がマスコミを賑わしています。また、若者の中にも、相手の弱点を取り上げて集団でいじめたり、自分ひとりでは到底やらない反社会的行動をするなど、恥ずべき事件が頻発しています。競争社会のなかで、卑怯な手を使って相手を傷つけることは、最も「品格のない」行為です。ルールを守り、自己の実力を磨き、信頼される人間になることこそが、競争社会で「高い品格」を持って生きる道です。

社会に向けて離陸を準備するこの4年間に、皆さんは、沢山の知識を身につけ、品性を持った人間としての第一歩を踏み出すことを期待して、私の式辞とします。

## II 平成 18 年度入学式 理事長挨拶

北九州市立大学理事長 阿南 惟正



理事長 阿南 惟正

新入生の皆さん、入学おめでとう。

皆さんは難しい入学試験を突破して、この北九州市立大学の門をくぐり、今、希望に満ち満ちているでしょう。晴れ渡った空の下、満開の桜の花も皆さんを歓迎しています。将来とも今日の感激、初心を忘れる事なく、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

同時にこれまで皆さんを見守ってきた御両親、先生方をはじめ多くのお世話になった方々に感謝の念を捧げて欲しいと思います。

この北九州市立大学は昨年 4 月に法人化して以来、新しい運営の理念を基にして大学改革を強力に推進してまいりました。これは、今、学長のお話にあったとおりであります。今年は、更にこれを押し進め、新しく整備した幾つかの組織を生かしながら、皆さんの学生生活をさらに一層豊かにすべく改革を推進して行きます。皆さんもこの動きに応じて、充実した学生生活を送ってください。

そのために、私は次の 3 つの点を皆さんに要望したいと思います。

まず第 1 は、目標をしっかりと持て、と言うことであります。

大学に入って何を身につけるか。初めから 1 つの目標を持って入って来た人もいるでしょう。これからじっくりと考えようとしている人もいるでしょう。いずれにせよ、大学で学ぶ 4 年間に、何かこれをやったと言う具体的なものを身につける事が大切です。学業に取り組んで行く事は勿論基本であります。語学をはじめとして文化サークル、あるいはスポーツクラブでも良い、何かに熱中する、そういう事で自分の人間としての幅を大きくする、それが卒業した後の生き方の柱となります。

何を目標にして良いか迷った時は、率直に先生や先輩方、友人達に相談する事です。独りで迷うほど無意味な事はありません。

2 つ目には、良き友人を作れ、と言うことです。

皆さんはそれぞれ、小学校、中学校、高等学校の過程で良い友人を得て来た事と思います。大学の場合は、それよりもっと深い意味で良い友人を持つ事が大切になります。地域の広がりの上でも、専門分野の上でも、趣味についても今までよりは広い変化のある範囲と、異なった環境で育って来た人とふれ合い、交流する機会が待っているわけであります。「必要な時の友こそ真の友」という言葉をご存知だと思いますが、そのような友人を多く作ってお互いに励ましあい、競い合って成長していく事が大事な意味を持つと思います。

3 つ目には、心の豊かさと健康な体づくり、と言う事です。

最近の日本では思いもよらない不祥事件や犯罪が続いています。

これは、すべて自分の利益や欲望を中心に考え、社会全体への責任とか貢献ということを忘れた事から起こっている訳であります。そういうものを防ぐためには、やはり、人の痛みを自分の痛みとして感じる事が大切です。心の豊かさは、自分の周囲の人々と共に幸せを求めていくという事です。

同時に大事なのは健康な体です。「健全な精神は健全な身体に宿る」と言いますが、前向きに挑戦しようとする意欲、逆境をはね返す力、これは全て健康な身体から生まれます。

以上、目標を持つ事、友人を作る事、心の豊かさと健康な体づくりと言う3点を要望としてあげました。

これからの時代、変化のスピードはますます速くなるでしょう。

しかし、そういう変化に、ただ押し流されてはいけない。むしろ、変化を前取りする、それに立ち向かって行く、そういう気構えが求められます。そして、若いフレッシュな感覚で新しい時代が要求する知識を吸収してほしい。大学で学んだ事をベースに生涯を通して向上に努め、国際的な素養を持った人材、あるいは地域に貢献できる人材、そういう人達が多く成長する事を期待するものであります。

どうか1日1日を大事にして、充実した大学生活を送って下さい。

入学式にあたりお祝いと励ましの言葉といたします。終わります。

### 《入学式の模様》



### Ⅲ 平成18年度新体制の紹介

今年度は下記のような新体制の中、理事長・学長を中心に大学改革に向け積極的に取り組んでいきます。

#### 《組織》

◇学長 矢田 俊文 (やだ としふみ)

◇副学長



はれやま ひでお  
晴山 英夫



くにたけ とよひこ  
国武 豊喜



こんどう みちあき  
近藤 倫明

◇学部長

外国語学部長



いたたに としお  
板谷 俊生

経済学部長



むかい ゆりお  
迎 由理男

文学部長



きのした よしさだ  
木下 義貞

法学部長



みやけ ひろゆき  
三宅 博之

国際環境工学部長



まつふじ やすのり  
松藤 泰典

◇社会システム研究科長

谷村 秀彦 (たにむら ひでひこ)

◇国際環境工学研究科長 (学部長が兼務)

松藤 泰典

◇学生部長

柳井 雅人 (やない まさと)

◇教務部長

中野 博文 (なかの ひろふみ)

◇都市政策研究所長 (副学長が兼務)

晴山 英夫

◇国際教育交流センター長

伊藤 健一 (いとう けんいち)

◇学術情報総合センター長

棚次 奎介 (たなつぐ けいすけ)

◇基盤教育センター長 (副学長が兼務)

近藤 倫明

・基盤教育センター副センター長

漆原 朗子 (うるしばら さえこ)

◇入試センター長

伊野 憲治 (いの けんじ)

◇キャリアセンター長 (副学長が兼務)

晴山 英夫

◇地域貢献室長 (副学長が兼務)

晴山 英夫

・地域貢献室副室長

吉塚 和治 (よしづか かずはる)

◇評価室長 (副学長が兼務)

晴山 英夫

・評価室副室長

前田 淳 (まえだ じゅん)

#### 《委員会》

◇教育研究審議会のもとに、次のとおり委員会が設置されています。

- 1 広報センター会議、2 評価室会議、3 大学評価委員会、4 研究委員会
- 5 地域貢献室会議、6 人権・セクシュアル・ハラスメント問題協議会、7 学生部委員会
- 8 キャリアセンター会議、9 国際教育交流センター会議、10 評価委員会
- 11 基盤教育センター会議、12 学部入試センター会議、13 大学院入試センター会議
- 14 教務部委員会、15 FD委員会、16 大学院委員会、17 学術情報総合センター会議
- 18 産学連携委員会
- 19 学部学科再編委員会 (①小委員会、②大学院再編分科会、③MOT分科会)

## IV 公立大学法人北九州市立大学 平成 18 年度計画

「公立大学法人」としての2年目を改革の実現に向けて加速・離陸する年と位置づけ、下記のとおり「公立大学法人北九州市立大学 平成 18 年度計画」を掲げました。

### 平成 18 年度重点項目

平成 17 年度の実績と成果をバネに、平成 18 年度は新たなスタートをした2年目として、

- ① 副学長3人体制を含む教育研究審議会を中心とした大学運営体制の強化
- ② 基盤教育センター、キャリアセンター、入試センターなどの教育・学生支援体制の整備
- ③ FD委員会設置など教育環境の改善
- ④ 平成 19 年度を目途とした学部学科再編やビジネススクール設置準備
- ⑤ 都市政策研究所の地域貢献の拠点化

など、中期計画の主要項目に取り組む分水嶺の年度である。

そのため、これまで以上に大学経営資源の「選択と集中」に留意しながら、教職員一体となって、「入試から就職までの一貫した教育システム」の構築に向けて、学生の教育環境の整備や研究体制の充実強化、地域貢献・産学連携の推進などに積極的に取り組むこととする。

なお、施策の推進にあたっては、年度計画の各項目に関する実施の進捗状況等を踏まえて適宜見直しを行い、順次施策を実施していくこととする。

### 平成 18 年度実施項目

#### 1. 大学運営

～スピードある戦略的な大学運営を進める体制づくり

##### (1) 組織運営

###### 戦略的・機動的な執行体制

- 理事長・学長のリーダーシップ発揮
- 全学的な企画戦略組織・教職員一体の検討体制整備
- 再編後の各種委員会による中期計画の推進

###### 学部運営の強化

- 学部長による運営体制の強化

###### 大学運営における透明性の確保

- 自己点検・評価体制の確立 ～評価室の設置
- 外部の優れた知見の活用 ～キャリアセンター、都市政策研究所に学外の有識者・専門家の採用
- 法人運営・教育研究活動の情報公開

##### (2) 人事制度

###### 教員人事制度の構築

- 教員評価システムの検証 ～昇任・賞与への反映を検討
- 透明性ある採用・昇任システム、柔軟な人事制度の検討、語学教育担当教員・女性教員等の採用
- 特任教員制度の導入 ～特別の専門的知識、実務経験等を有する教員の活用

###### 事務職員の資質向上・人材確保

- 評価制度の導入、研究等
- 優秀な人材確保・育成 ～計画的な大学固有職員の採用

##### (3) 財務運営

###### 戦略的な資源配分

- 経営戦略の観点で踏まえた予算編成 ～理事長・学長のリーダーシップの下での戦略的予算編成
- 研究費配分の見直し ～競争的研究費の配分に教員評価結果の反映

###### 自主財源の充実、経営効率化

- 財政収入のあり方検討、適正な人員配置 ～人員計画の見直し

###### 外部資金の確保

- 外部研究資金の確保、外部資金確保のための環境整備 ～科学研究費補助金への申請義務化など

## 資産管理

○学内施設・資産の適正管理

### (4) 広報

○広報機能の強化 ～広報体制の整備、学内情報の共有化、学外への積極的情報発信

### (5) 危機管理

○危機管理、安全管理

○情報セキュリティ ～「情報セキュリティポリシー」他

### (6) 人権啓発

○人権啓発 ～セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント等の防止策の強化

### (7) 施設整備

○長期整備計画の策定、良好な教育研究環境整備

## 2. 教育

～質の高い教育、豊かな教養と高度な専門性を兼ね備えた人材育成

### (1) 教育研究組織・体制の整備

○基盤教育センターの設置

○専門職大学院（ビジネススクール）の設置 ～平成19年度目途に設置

○国際環境工学研究科新専攻の設置 ～平成19年度目途に設置

○学部・学科等の再編 ～平成19年度目途

○教育体制の充実 ～入試から就職まで一貫した教育システムの構築

### (2) 教育内容・方法の改善

#### カリキュラムの整備

○カリキュラム整備

#### 語学教育・情報処理教育

○語学教育の拡充、情報処理教育、図書の充実

#### 授業手法・内容の向上

○授業手法・内容の改善 ～FD委員会の設置

○学習支援体制の整備 ～オフィスアワー制度の導入、チューター・アシスタント制度の試行的導入

○博士学位の取得

#### 厳密な成績評価

○GPA制度の導入・活用、学生表彰制度の導入

○成績表の保護者等（学費負担者等）への送付

### (3) 入試、就職、学生支援

#### 大学入試（優秀な学生確保）

○企画立案・実施体制の強化 ～「入試センター」の設置

○入試広報活動の実施、AO入試など選抜方法の検討 他

#### 学生支援

○生活相談・メンタルケア等、サークル活動等支援

○学生の声の反映

#### キャリア支援

○企画立案・実施体制の強化 ～「キャリアセンター」の設置

○キャリア支援の実施

### (4) 社会人教育の推進

○専門職大学院（ビジネススクール）の設置 ～平成19年度目途に設置

○社会人対象の教育充実、選抜方法の整備

### 3. 研究

～先端的で独自性ある優れた研究活動、産学官連携のプロジェクト推進

#### (1) 研究体制の構築、重点的な研究推進

##### 研究体制の構築

- 研究分野の重点化～特別研究推進費の配分を見直し、戦略的視点から研究分野の選択と重点化の推進
- 研究評価の実施、研究費への反映～教員評価システムに基いた研究費配分、特別研究推進費の特別枠設置
- 柔軟な人事制度による研究者養成・確保

##### 重点的研究の推進、研究交流

- 重点的研究の推進
- 独自の東アジア研究と人材育成 ～北九州市環境科学研究所アクア研究センターの国際環境工学部への移管
- 地域に関する研究の推進
- 大学・学術研究機関との研究交流、共同研究 ～他大学や他研究機関との共同研究、研究交流 他

#### (2) 産学官連携・地域還元の推進

##### 産学官連携のルール・環境整備

- 知的財産の管理、利益相反のルール整備 ～「(仮称) 利益相反ポリシー」の策定
- 学内共同利用施設の開放

##### 産学官連携プロジェクト・地域還元

- 技術開発センター群の設置、北九州ヒューマンテッククラスター構想の推進
- 研究プロジェクトの誘致、連携協力の推進
- 地域課題に応える調査研究の実施 ～都市政策研究所の充実、強化

### 4. 社会貢献

～地域活力の創造への貢献、国際交流の推進

#### (1) 大学間連携の推進

- 北九州地域大学コンソーシアムの形成 ～市民向け連携講座、単位互換、共同事業 他

#### (2) 地域社会との連携

##### 推進体制の整備

- 地域貢献室の設置

##### 社会人教育の推進

- 専門職大学院（ビジネススクール）の設置（再掲）

##### 地域貢献の推進

- 研究プロジェクトの誘致、連携協力の推進（再掲）
- 地域課題に応える調査研究の実施（再掲）

##### 初等中等教育機関との連携

- 高大連携の推進 ～「高大連携サマースクール」開催 他
- 地域密着型環境教育プログラムほか小・中・高連携の推進

##### 生涯学習・スキルアップ等の推進

- 市民向け修学制度等の充実
- 地域再就職希望者支援訓練事業の実施

##### 地域企業支援

- 地域企業活性化の人材育成拠点形成

##### 地方自治体・NPO・後援会等との連携

- 地方自治体・後援会等との連携
- NPO団体等との連携

#### (3) 国際交流の推進

- 国際教育交流センターの運営体制充実
- 留学生の受入・支援
- 国際学術交流、国際協力
- 地域の国際化

## V 北九州市立大学中期計画 平成17年度の主な取組成果

平成17年4月に公立大学法人として新たにスタートした北九州市立大学は、169項目からなる中期計画（平成17～22年度）を推進していますが、スタート1年目の平成17年度の取組の主な成果は下記のとおりです。

### 1 教員人事制度の改正

- 教育研究審議会による教員の採用・昇任選考
  - ・ 教員の採用・昇任等にあたっては、従前の学部教授会による選考方法ではなく、教育研究審議会のもとに選考委員会を設置し、透明性のある選考方法に変更。
- 教授半数制の見直し
  - ・ 専任教員のうち教授の割合を2分の1から最大3分の2へ変更して、量的緩和をする一方、昇任に関しては教員評価の活用や資格要件を明確にするなどの質的充実を図り、教員人事の柔軟性の確保や教育研究内容の改善を図る。
- 語学教師制度の見直し
  - ・ 外国語教育を担う優秀な教員を確保するため、語学教師を平成18年度から異文化言語教育担当教員として雇用する制度改正を決定。
- 特任教員制度の導入
  - ・ 特別の専門的知識、実務経験等を有する教員を活用し、幅広い人材を登用するため、平成18年度から特任教員制度の開始を決定。

### 2 教員評価制度の全学的導入

- ・ 教育・研究・社会貢献・大学運営を評価対象とする教員評価制度を全学的に導入し、評価結果を平成18年度研究費に反映する。

### 3 入試センター、基盤教育センター、キャリアセンターの設置決定 （「入試から就職までの一貫したシステム」の確立）

- 入試センターの設置決定
  - ・ 入試制度の企画立案、入試実施体制の管理等を行い、入試体制を強化するため平成18年4月設置を決定。
- 基盤教育センターの設置決定
  - ・ 教養教育、語学教育、情報教育等を全学的かつ体系的に実施するため、平成18年4月に基盤教育センターに教員を配置し、組織体制を整備。  
（平成19年4月からの実施開始予定）
- キャリアセンターの設置決定
  - ・ 体系的なキャリア教育と実践的なキャリア支援を全学的に強化するため、平成18年4月設置を決定。  
また、進学・就職に関する豊富なノウハウを有する実務教員を民間から平成18年4月に採用。

### 4 専門職大学院（ビジネススクール）の設置決定

- ・ 社会人を対象とした高度で実践的な教育を通じ、起業家精神あふれる人材を育成するため、専門職大学院（ビジネススクール）を平成19年4月目途に開設。

〔 なお、 ・ 法科大学院は今後の情勢を踏まえ、改めて設置を検討  
・ MOT（技術経営）は検討の熟度を踏まえ、単独設置は当面見送り 〕

### 5 学生支援体制の強化

- 学生相談体制の整備
  - ・ 学生のメンタルケアを行うため、精神科医等の専門家の活用を図り、生活相談や進路相談窓口担当者との連携を深めるなど、相談体制を充実。
- 学生表彰制度の制定
  - ・ 学術研究活動、課外活動、社会活動、その他の活動で特に顕著な業績等を上げた学生を表彰するため、学生表彰制度を導入。
- 学生の体験学習・自主的活動の支援
  - ・ ボランティア系サークルとの意見交換及び「雪かきボランティア活動」の支援

### 6 都市政策研究所の発足とアクア研究センターの統合決定

- 都市協会の研究機能を北九州産業社会研究所に統合し、都市政策研究所に改称
  - ・ 都市協会研究機能との統合（平成18年4月）を決定。  
（社会貢献と調査研究機能の強化を図るため、地域連携コーディネーター教員を採用）
- 国際環境工学部とアクア研究センターの研究組織の統合決定
  - ・ アジアの発展を担う高度な環境人材育成を促進するため、北九州市環境科学研究所アクア研究センターとの機能統合（平成18年4月）を決定。
  - ・ 平成19年4月を目途に大学院国際環境工学研究科に資源循環の新専攻を設置予定。

## VI 役員会、経営審議会及び教育研究審議会の開催状況

平成18年2月7日（火）～平成18年4月25日（火）までの開催状況について掲載します。

なお、各審議会の議事要録については、北九州市立大学ホームページにおいて閲覧することができます。閲覧の際は、ホームページの「北九州市立大学について」から「提供・公表情報」をクリックしてください。

### 【役員会】

#### 第9回 3月14日（火）

- ① 平成18年度計画案について
- ② 平成18年度予算案について

### 【経営審議会】

#### 第6回 3月14日（火）

- ① 平成18年度計画案について
- ② 平成18年度予算案について

### 【教育研究審議会】

#### 第23回 2月7日（火）

- ① 各種センター等の規程について
- ② 各種センター長等の選任について
- ③ 外国語学部自治会交渉申入書に対する回答について
- ④ 教員の採用について
- ⑤ 教員の退職について
- ⑥ クランフィールド大学との学術交流協定について
- ⑦ GPA、オフィスアワー、SA制度の導入及びFD委員会の設置について
- ⑧ 学部学科等再編小委員会の設置について

#### 第24回 2月21日（火）

- ① 学科長の選任について
- ② 各種センター長等の選任について
- ③ 教育研究審議会の委員について
- ④ 教員の採用について
- ⑤ 教員の昇任について
- ⑥ 教員ポストの取扱いについて
- ⑦ 都市協会統合に伴う協定について
- ⑧ 学部規程等の改正について
- ⑨ 公開講座の見直しについて
- ⑩ 特別研究推進費の運用改善について
- ⑪ 平成18年度計画案について
- ⑫ 広報戦略方針について
- ⑬ 自己点検評価の進め方について
- ⑭ セクシュアル・ハラスメント問題協議会での審議について

#### 第25回 3月7日(火)

- ① 各種委員会の構成について
- ② 教員の採用について
- ③ 教員の昇任について
- ④ 学科長候補者の変更について
- ⑤ 北方サロンの設置について
- ⑥ 平成18年度計画について
- ⑦ 国際環境工学研究科新専攻設置準備室要綱について
- ⑧ 産業社会研究所規程の改正について
- ⑨ 規則等の改正について
- ⑩ FD委員会規程(案)について
- ⑪ 学生の表彰について

#### 第26回 3月22日(水)

- ① 大学院研究科長(修士課程)の選考について
- ② 各種委員会の構成について
- ③ 大学学則及び大学院学則の一部改正について
- ④ 教員の任期に関する規程別表の改正について
- ⑤ 学部規程等の改正について
- ⑥ 各センター設置に関する施設整備について
- ⑦ 学友会の要望に対する回答について

#### 第27回 4月11日(火)

- ① ビジネススクール設置準備室要綱について
- ② 任期制教員の再任について
- ③ 学友会の要望に対する回答について

#### 第28回 4月25日(火)

- ① 教員の採用について
- ② 教員の退職について
- ③ 外国人留学生特別入学規程の改正について



## Ⅶ トピックス

### 外国語学部アダム・ヘイルズ先生がラジオパーソナリティに！！

#### ◆CROSSFM「ADAM'S FAMILY」好評オンエア中！

CROSSFMで放送中の「YAGI RADIO やぎらっちょ」内のコーナー「ADAM'S FAMILY」（放送時間毎週月～木曜 23:10～23:15）に、外国語学科英語専攻のアダム・ヘイルズ助教授が4月3日（月）から出演しています。このコーナーは、名前のおりヘイルズ先生の話を中心にDJの八木徹さんと二人で進行しています。内容はイギリスと日本の文化・習慣の違いや、イギリスの若者の間で流行っている音楽、スポーツなど楽しく紹介しています。

そして、番組の最後にはヘイルズ先生による「ワンポイント英会話」を毎回放送しています。既に、多数の質問メールがヘイルズ先生あてに届いています。八木さんとヘイルズ先生のやりとりがおもしろくて、毎回あっという間に5分間が過ぎていきます。このコーナーで北九大の良さをどんどんリスナーに伝えていきたいと思っています。

皆さんも一度、「ADAM'S FAMILY」聴いてみてください。



「ADAM'S FAMILY」収録中

### 平成17年度卒業生の就職状況（速報）

3月25日（土）本学体育館兼講堂において学位授与式（卒業式）が行われました。今期卒業生の就職決定率は4月20日現在集計中ではありますが、昨年の89.4%を上回る92.4%を記録しています。学部別に見ると外国語学部91.2%、経済学部92.3%、文学部89.0%、法学部91.3%、国際環境工学部99.2%となっています。景気の回復に加え、「団塊の世代」の大量退職期を迎えた企業の採用意欲の高さも影響しているとは思いますが、なんと言っても今期卒業生が健闘した結果ではないでしょうか。今年も多方面に前途有望な人材が旅立ちました。卒業生の皆さん、体に気をつけ充実した社会人生活を送ってください。また在学生の皆さんも先輩に負けぬように頑張ってください。

### 学生表彰



#### ◆平成17年度 学生表彰式の開催について

北九州市立大学では、平成17年度から本学学生の模範たる活動を行った学生を表彰する制度を制定しました。

この表彰制度は、学術研究活動、課外活動及び社会活動等において、高い評価を受けた学生を表彰するもので、平成18年3月22日に記念すべき第1回の表彰式が開催されました。

表彰式では、課外活動を中心に、米英研究会（ESS）、中国語会話研究会、硬式野球部、磯野紗希さん（外国語学部2年生）が表彰を受けました。

表彰者は、各団体・個人ともに、語学やサークル活動において、本学学生の模範たる優秀な成績を収めました。



## 研究交流会「北方サロン」

### ◆研究交流会「北方サロン」(第1回)を開催!

平成18年度から北方キャンパス教員を中心とした教員間の交流と知的ネットワークづくりのための研究交流会『北方サロン』(第1回、会場:本館7階ラウンジ)が4月19日(水)に開催されました。

第1回は、社会システム研究科の井原健雄先生をコーディネーターに、外国語

学部の下野寿子先生と社会システム研究科の横山宏章先生が話題提供してくださいました。下野先生は「対外開放の政治経済学」というテーマで、ご自身の研究者としての歩みや博士論文作成過程でのエピソード等をお話され、会場からは論文を著書出版する際の会社選びや人脈の活用の仕方などについて数多くのアドバイスが寄せられました。

横山先生は「なぜ中国研究に惚れたのか」というテーマで、長年の中国政治外交史研究における数々の著書や貴重な体験、エピソードをユーモアを交えてお話しされ、会場との意見交換は今後の日中関係のあり方などで大いに盛り上がりました。

北方サロンの会場には30名を超える先生方が参加され、ワンコイン・ドリンクバー(セルフ)とともに大変好評をいただきました。今後も一層内容を充実させ、毎月第3水曜日に開催いたします。(5月17日(水)、6月21日(水)、7月19日(水)の16:00~18:00の予定です。)

皆様のご参加をお待ちしております。



公立大学法人 北九州市立大学学報第5号

平成18年5月9日発行(季刊)

発行 北九州市立大学事務局経営企画課

住所 〒802-8577 北九州市小倉南区北方四丁目2番1号

TEL (093)964-4195 FAX (093)964-4000

URL <http://www.kitakyu-u.ac.jp/>

E-mail [k-kikaku@kitakyu-u.ac.jp](mailto:k-kikaku@kitakyu-u.ac.jp)